

# 表10. 放射線の確率的影響

- 確率的影響にはしきい値はないが線量の増加とともに影響の出る確率が増加する
- 広島・長崎の原爆被爆者疫学調査から100mSv以下ではがんや遺伝病の有意な増加は証明されていない、100mSvでがん死亡が0.5%増加
- がんも遺伝病も放射線被ばくの有無にかかわらず自然発生するので、放射線誘発のがんや遺伝病を個々に特定できない
- ICRPは緊急時の放射線防護基準を20-100mSvとしており(わが国では20mSv)、現存被ばく状況の基準を1-20mSvと決めている、わが国での避難基準は20mSv
- 被ばく線量が同じでも1回に被ばくするより長期間に被ばくする方が影響は1/2以下になる
- 今回の被ばくは線量が低く、有意な健康影響はほとんどないと予測され、適切な情報を得て冷静に行動すべきである